

東京23区私国立中入試概況

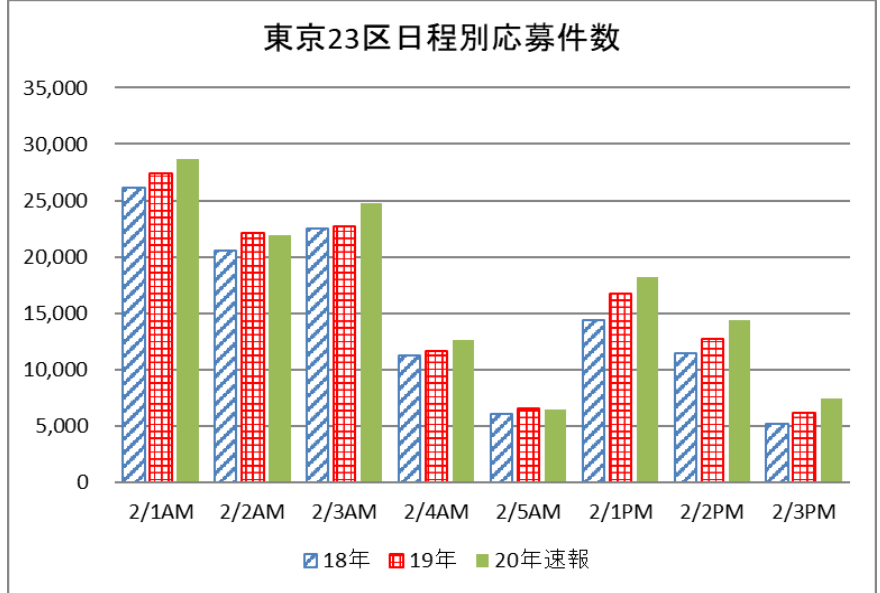
1. 概況 中学受験の拡大と東京集中で受験生は増加、合格者はあまり増えずに難化

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含めて約62,000名で、昨年より約1,600名増えています。東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月17日現在、1月までの帰国入試を含めて144,000件あまりです。昨年の最終が約135,000件でしたから大きく増えています。入試結果未公表の学校や3月に二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乗せされます。実際の受験者数も約106,000名と、昨年同時期の95,600名より約9%の増加、合格者数は約38,000名でした。この数字には、

コース制実施校での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校もありますから、「入学できる」合格者はもっと多くなりますが、同じ基準で昨年の同時期と比較すると約1,100名、約3%しか増えていません。実受験者数ほど増えていないわけで、昨年に続いて、平均倍率アップによる難化傾向が表れています。

上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方寮制校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多、2番目は3日午前、3番目が2日午前です。1日午前は昨年よりも約4%、約1,200件増加しています。1日午前は多くの受験生が第一志望校に挑戦する日ですから、都内中学受験の拡大を示す応募状況です。

グラフでは、昨年は2番目の3日午前と、3番目の2日午前の差がわずかで、今年は2日午前の応募者が減少している点が注目されます。これは今年の2日が日曜日に重なったことから、プロテスタント校の一部が日曜午前の入試を避けて、午後や3日に移動した影響です。4日午前、5日午前には応募者数が少なく、昨年との差もあまり大きくありません。5日午前には昨年より



わずかですが減っているくらいです。遅い日程まで挑戦を続ける受験生は今年もあまり多くはありません。

午後入試は、グラフのように1日午後、2日午後、3日午後とも応募者数が増えています。1日午後には今年も田園調布学園が午後入試を新設したり、巣鴨や世田谷学園の午後入試に多くの受験生が集まりましたが、その状況が表れています。2日午後には約13%増と、応募者が大きく増えて1日午後との差が小さくなりました。富士見が午後入試を新設したり、プロテスタント校の恵泉女学園が日曜日なので午後実施に移行したことなどが増加の理由です。4日や5日まで挑戦するよりも、せめて3日午前までで入試を終えたい、そのために午後入試を活用する受験生が多くなっています。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ

れ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用年の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年と今年とでは異なる場合があります。今年のグループピングは23ページに一覧の形で掲載しました。

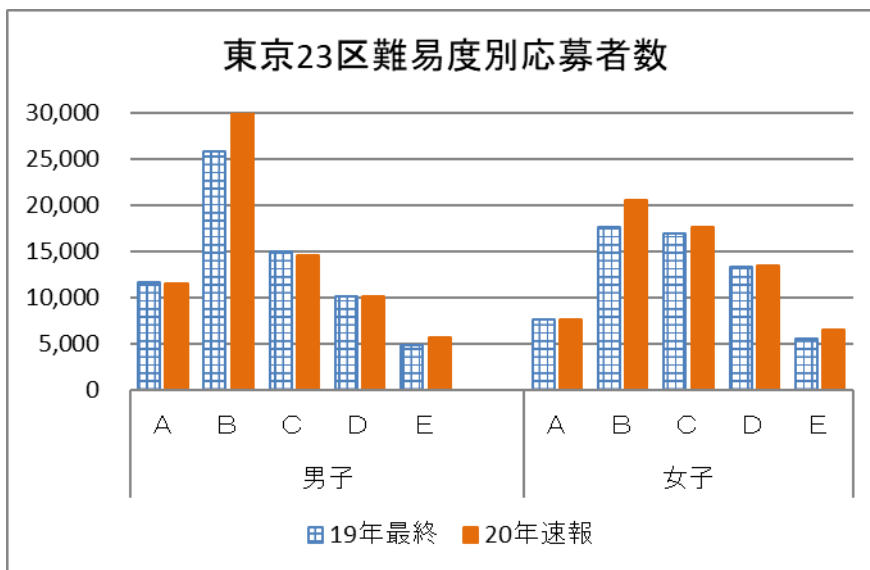
男子はBグループの応募者が一番多く、応募総数の4割近くを占めていましたが、今年もBグループの応募者が集中的に増えています。最難関校のAグループは自信がないけれど、難関・上位校は狙

いたいとする受験生です。また、多摩地区や隣接各県からの受験生も、Aグループは無理でもBグループなら混雑した電車で都心まで通う価値は十分ある、と判断しているのでしょうか。CグループやDグループなら都心まで出なくても、もっと近くに良い一貫校がある、と考えている受験生も多かったようです。

一方、女子もBグループが最多で、今年も増えていますが、男子ほどはBグループに集中していません。全体に占める割合は約3割で、CグループやDグループの受験生も多く、この両グループも応募者は大きく増えています。グラフをパッと見ると「大きく」などというほどか、と疑問を持つかもしれませんが、このグラフは多摩地区や他県のページのグラフとは目盛りの間隔が違います。Cグループでも昨年より約700件増えています。男子も女子も、目立って減ったグループはなく、中学受験の拡大で増えた受験生が、昨年までの受験者層に上乘せされたような応募状況でした。続いて各校の様子を簡単にご紹介します。都立の中高一貫各校と区立九段中等は公立一貫校のページをご覧ください。

2. 男子校 ＜難関校～中上位校＞

まず男子御三家から。開成の応募者数は安定傾向で、今年はやや増えましたが、安定が続いているといつてよい水準でしょう。実際の受験者数、合格者数もほぼ同じで、合格最低点は若干下がりましたが、今年も高難度の厳しい入試でした。麻布は、厳密には昨年、応募者が若干減っていましたが、今年も増えています。



実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並み、合格最低点は昨年とほぼ同じで難度に変化は見られません。今年も厳しい入試でした。武蔵の応募者数は、一昨年は減ったものの、昨年、今年と少しずつ増えています。以前よりも少し入りやすくなってきたこともあって、力不足気味でも挑戦志向が高い受験生が増えている影響で、昨年は合格最低点が少し下がって、今年も昨年並みですが、あくまでも高難度の学校としてみれば、の話です。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、一昨年は応募者数が前年並み、昨年はやや増えていて、今年もまた増えて増加しました。中学受験の拡大とともに人気が上がっています。実際の受験者数も増えましたが、合格者は増えておらず、合格最低点は上昇、厳しい入試になりました。国立の筑波大駒場は、一昨年は応募者が減っていましたが、昨年は増加、今年も減って、隔年現象が見られます。実際の受験者数も減って、合格者は昨年並みに出していますが、合格最低点はやや上がっています。少し得点しやすい出題だったようです。すでに高難度ですから難度そのものはあまり変わっていません。

海城は、各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増加、今年もやや増加していて、回次ごとでは帰国入試が若干減ったものの、2月1日の1回、3日の2回とも少しずつ増えました。実際の受験者数は特に2回が増えている、最難関校併願受験生や1回不合格者の再挑戦の受験生が増えていることがわかります。帰国入試と1回は昨年並みの合格最低点で、2回はやや下がっていますが、得点分布の関係でしょう。難度に

変化は見られません。早稲田は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回とも応募者が増加、昨年は減って、今年は再び増加して隔年的な変化です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで実質倍率は上昇、2回は昨年とあまり変わらない合格最低点でしたが、1回は上昇して少し難化しています。

暁星は長い間2月3日に1回だけ入試を行っていましたが、いよいよ複数回入試になりました。一般入試と同時に行っていた帰国生入試を12月に独立して実施、従来型の入試は1回として定員を削減して2日に前倒しし、3日午後2科の2回を新設しました。1回の応募者は減りましたが、帰国入試は増加、新設の2回も昨年の3日の入試並みの応募者数で、合計の応募者数は昨年の2倍近くに増えています。1回は合格最低点大幅に上昇、難化しています。2回は実質倍率20倍を超える高倍率で、合格最低点は科目数が違うために単純比較できませんが、得点率は70%を超えていて、高難度で厳しい結果でした。

芝は、一昨年は2月1日の1回、4日の2回とも応募者が前年並みでしたが、昨年、今年と、1・2回とも減っています。ただ、1・2回とも合格者数、合格最低点は一昨年や昨年とあまり変わっておらず、同校を挑戦受験で考える学力層の受験生が他校に流れたようです。特に難度も変わっていません。

巣鴨は一昨年2月4日にⅢ期を新設、昨年は1日に算数選抜の午後入試を新設して、応募者の増加が続いています。今年は入試に特に変更はありませんが、積極姿勢が受験生に評価されたようで、各回次とも応募者はかなり増えていて、第一志望、他校併願とも人気が上がって、過熱状態でした。合格者はどの回次も増やしていますが、それでも全回次で合格最低点は上昇、厳しい入試になりました。城北は、一昨年は各回次とも応募者が少し増加、昨年は2月1日の1回が一昨年並み、2日の2回が減って、4日の3回はやや増えていました。今年は各回次とも増えていて、中学受験の拡大で人気を上向いているようです。合格者数は3回が増えましたが、1・2回は昨年並みで、合格最低点も各回次とも昨年とあまり変わらず、難度に変化は見られません。

本郷は2021年度からの高校募集廃止を公表しています。一昨年は各回次の合計の応募者が少し減っていましたが、昨年は大きく増加、今年は2月1日の1回、2日の2回は昨年並み、5日の3回は少し減っています。他校併願の受験生が、一部他校に流れたのかもしれない。

合格者数はどの回次も昨年より少し増えていますが、合格最低点は1回が上昇して難化、2・3回は昨年並みです。実質倍率はやや緩和していますから、同校の受験生の学力層が上がったのでしょうか。

世田谷学園は昨年、2月1日午後初めての午後入試として算数特選を新設、一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年は算数特選に400名を超える応募者があったほか、ほかにも増えた回次があって、合計ではかなり増加していました。今年も人気は継続していて、すべての回次で応募者は増加、第一志望、他校併願とも人気上がり、過熱しました。合格者数は1日午前の1回は昨年並みでしたが、他の回次は増やしており、合格最低点は1回が昨年並みだったほかはすべて上昇しています。第一志望生の受験が中心の1回は昨年並みの難度ですが、他の回次は難化した厳しい入試になっています。

攻玉社は、もともと隔年的な応募者数の変化が見られた学校で、一昨年は応募者数が各回次とも増加、昨年は減少しました。順番通りなら今年は増えるはずですが、回次ごとの増減があるものの合計では小幅の増加に留まりました。2月1日の1回は増えていますが、3日の2回、5日の特別選抜は昨年並みです。今年は世田谷学園や巣鴨が大人気になっていることから、受験生の流れが少し変わったようです。1・2回の合格最低点はやや上がっていて、難化したかどうか、といったところですが、国際学級の英語選択と特別選抜は上昇していて、難化した入試になったようです。

東京都市大付属は、各回次合計の応募者数では都内男子校のトップです。Ⅰ類、Ⅱ類の類型制で、一昨年は合計で応募者数がやや増加、昨年は増加、今年はわずかですが減少しています。減少しても都内男子校のトップであることは変わりません。応募者はわずかに減りましたが、欠席者は減って、実際の受験者数は増えて、しかも合格者は少し絞っています。このため、2月6日の4回の合格最低点は昨年並みですが、4日の3回はⅠ・Ⅱ類とも上昇、難化していて、1日午後の1回と2日の2回もやや上がっています。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は一昨年、昨年、今年とほぼ同じ応募者数が続いている、安定した人気です。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、難度も安定した入試でした。立教池袋も附属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は一昨年前年並みでしたが、昨年、今年と増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、

補欠も出している関係で合格最低点はあまり変わっておらず、難度は特に変化していないようです。

学習院は隔年現象で応募者の増減が見られた学校で、昨年は減る順番でしたが、2月3日の2回が少し減っただけで、2日の1回や帰国入試は小幅ながら増加、今年は帰国入試がやや減ったものの、1・2回とも増えて、人気が上がってきました。大学附属校人気が表れています。実際の受験者数も同じ変化で、合格者数は帰国入試と1回が昨年並み、2回は少し絞っています。合格最低点は1・2回とも上がり、少し難化した結果でした。明大中野の2月2日の1回は応募者の増加が続き、昨年1,100名を超えました。今年は反動で少し減りましたが、1,000名台が続いています。4日の2回は、昨年は応募者が増加して800名を超えましたが、今年こちらも減りました。人気が一段落したようです。実際の受験者数も減っていて、1回は昨年並みの合格者数、2回は少し増えましたが、合格最低点は1・2回とも昨年並みで、難度に変化はなかったようです。

<中上位校～中堅までの各校>

芝浦工大附属は2017年度から豊洲の新校舎に移転、入試科目も首都圏では珍しい関西型の国算理で、2月6日の第一志望入試は、それまでの入試回次で一定点数以上の不合格者を対象に、事前課題や作文・面接の独特の入試を行っています。第一志望入試を含めた各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は減少、今年は大きく増えました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで実質倍率は上がりました。ただ、合格最低点は各回次とも下がっていて、出題難度の影響はありますが、やや入りやすくなったかもしれません。2021年度から共学化が予定されています。今年と大きく変わった入試状況になるでしょう。

獨協は大学附属ですが、附属校カラーはほとんどありません。一昨年、昨年、今年と、回次ごとでは応募者数に小幅の変化があるものの、合計はあまり変化がなく、安定した人気です。2月1・2日の1・2回は合格者数、合格最低点とも昨年並みでしたが、4日の3回は実際の受験者数が増えていて、合格者数は逆に少し絞ったため、合格最低点は上昇、難化しています。

日大豊山は附属カラーの強い学校で、一昨年までは各回次合計の応募者数が増えましたが、昨年は一昨年並みでした。今年は各回次とも増えていて、特に2月2日午後の2回と3日午後の4回が大幅な増加です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は概ね昨

年並みで、実質倍率は上がっています。合格最低点は2回と3日午前の3回が上がっていて、少し難化したかもしれません。1日午前の1回と4回は昨年並みでした。

純粋な進学校では、成城は、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が少しずつ減っていましたが、今年は各回次とも増加、特に2月3日の2回、5日の3回は大きく増えていて、第一志望の受験生も増えていますが、他校併願の受験生の増加が目立ちます。合格者数は昨年並みで、実質倍率は上がりましたが、合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わらず、難度はあまり変わっていないようです。高輪は各回次合計の応募者数が一昨年は前年並み、昨年は減りましたが、今年は増加して一昨年の水準を上回りました。隔年的な変化ですが、中学受験の拡大で同校の人気が上がっています。合格者数は各回次とも昨年並みで、合格最低点は2月4日午前のCが上昇、難化しました。他の回次もやや上がっていて、出題難度の関係はありますが、少し難化した可能性もあります。

佼成学園は2月3日に面接と書類審査のスーパーイングリッシュ入試を新設しました。一昨年は各回次とも応募者が少し減っていましたが、昨年は一昨年並み、今年は多くの回次で増加しています。他校併願の高学力層の受験生の増加が目立ちました。好調な進学実績で、上位校の併願先としての期待が高まったのでしょう。1日午前・2日午前・3日午前はいずれも合格最低点が少し上がっていて、やや難化したようです。特奨入試や適性検査型も昨年とあまり変わらない難度でした。

特選・中高一貫の2コース制の京華は、一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年は増加、今年は昨年以上に大きく増えました。2月1日午前の1回は昨年並みですが、他の回次が増えていて、増加の中心は併願受験生です。実際の受験者数、合格者数も増えて、特選入試の合格最低点は少し上がり、やや難化したかもしれません。中高一貫の各回も2日午後は合格最低点が上がって少し難化したようです。他の回次も昨年並みの難度でした。

足立学園は2月1日午前の2科4科選択入試を「志入試」とし、基礎2科のほかにエントリーシートと面接による入試に変更しました。一昨年は各回次合計の応募者数がやや減っていて、早い日程や特奨適性入試は前年並みだったものの、他の回次は少しずつ減った結果でしたが、昨年は各回次とも増加、今年は再び少

し減って、隔年的な変化です。志入試も2科4科選択のときより少し減りました。合格最低点は3日午後の特奨4回は下がったものの、他の回次はやや上がっているものが多く、全体的にはやや難化したかもしれません。志入試は、同校によるとエントリーシートや面接、調査書ではあまり差がつかず、結局2科基礎テストの得点で差がついたとのことでした。

聖学院はレゴを使ったものづくり思考力入試などで有名です。今年は2月2日午後に教科型の特待生入試を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数が前年並みで、昨年は増加、今年は昨年並みで、段階的に人気が上がっていることがわかります。本稿執筆時点では合格最低点がまだ公表されていませんが、新設の2日午後の特待生入試は1ランク高い難度、それ以外は全体的に昨年並みの難度だったようです。日本学園は小規模な入試の学校で、今年は一部の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は少し減っていますが、不合格者も出ていますから、難度は昨年並みが続いています。

3. 女子校

<難関校～中上位校>

女子御三家の桜蔭は、一昨年は応募者が少し増えて、昨年は一昨年並み、今年は少し増えましたが、安定した応募者数が続いています。合格最低点は未公表ですが難度に変化はなく、今年も高難度の厳しい入試ですが、以前よりも補欠の発表数が増えていて、桜蔭といっても、合格しても他校(渋谷幕張などが多いようです)に流れるケースが珍しくなくなってきました。女子学院は、一昨年は応募者が大きく増加、昨年もやや増えていて、今年は昨年並みでした。やはり合格最低点は未公表ですが、もともと高水準の難度は変わっていないでしょう。御三家のもう一校、雙葉は、一昨年は応募者がやや減っていましたが、昨年、今年と増加しています。実際の受験者数も増えていますが、今年は合格者数をやや減らして、合格最低点は昨年とあまり変わっていません。例年並みの難度でしょう。

御三家に続く豊島岡女子は、2022年度からの高校募集停止を発表しています。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年はやや減り、今年は少し増えています。横ばいといってよいでしょう。実際の受験者数も同傾向です。補欠を出していますが、2月3日の2回は合格最低点が上がっていて、少し難化したかもしれません。2日の1回、4日の2回は昨年並みで、

難度はあまり変わっていません。白百合学園は帰国生入試が昨年並みの応募者数、2月2日午前の一般入試は、一昨年は応募者が減りましたが、昨年、今年と増加が続いていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えましたが、合格者は逆に絞っていて、昨年に続いて合格最低点は上昇、今年も難化した入試でした。帰国生入試は合格最低点が下がっていますが、出題難度の関係でしょう。

鷗友学園は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回は応募者が少し増えていて、昨年はさらに2回とも増えました。今年は1回が昨年並み、2回はやや減っています。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向ですが、合格最低点は2回ともほぼ昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。学習院女子は、曜日の関係で帰国入試を1日早めました。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていましたが、今年は帰国生が昨年並みの応募者数だったものの、2月1日のA、3日のBとも減っていて、上がっていた人気が一段落しました。Aは昨年並みの合格最低点、Bは少し上がりましたが、出題の難度の関係のようです。例年通り補欠を出していますので、学校としての難度はあまり変わっていないようです。

立教女学院は、一昨年は帰国・一般とも応募者が前年並み、昨年は帰国がやや減ったものの、一般は増加していました。今年は帰国・一般とも少し増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は今年も昨年並みで、合格最低点はまた少し上がりました。やや難化しています。東洋英和はプロテスタント校で、昨年は例年2月3日のBが日曜日に重なるため2日に移しましたが、今年は2日が日曜日で3日に戻しました。昨年はBが2日に移った影響で応募者が減り、Aもその影響で減りましたが、今年はBが3日に戻ったため、Aも含めて応募者は大きく増えました。日程移動の影響だけでなく、中学受験の拡大も応募者の増加に寄与しています。A・Bとも実際の受験生も増えましたが、特にBは合格者を絞ったため、実質倍率はかなり上がりました。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、Aはやや難化、Bは難化確実でしょう。

頌栄女子学院は曜日の関係で12月の帰国入試の日程を1日早めました。一昨年、昨年と各回次合計の応募者数は減っていましたが、今年も少し減っていて、帰国生は応募者が増えていますが、2月の一般入試は1日の1回と5日の2回とも減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格最低点は昨年1・2回とも

上昇、今年も昨年並みで、受験生が絞られている傾向が見られます。普連土学園は昨年、2月1日午後算数1科目入試を新設、午後入試を2回にしました。各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、既存の入試回次の中には応募者が少し減った回次も見られました。もっとも、実際の受験者数では応募者が減った回次も一昨年並みでした。今年は他校の午後入試新設の影響を受けて、各回次とも応募者が減っていて、特に2日午後が大きく減っています。実際の受験者数も減っています。合格者数は昨年並みで実質倍率は下がっているものの、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に影響はなく、減った受験生は同校を挑戦受験として考える受験生でした。

カトリックの光塩女子は、2月1日の1回に総合型を、2月2・4日の2・3回に4科の入試を実施しています。1回は応募者数があまり変わらずに推移していて、2回は隔年的に変化し、今年は順番通り増えていて、3回は一昨年が増加、昨年、今年とあまり変わっていません。実際の受験者数や合格者数は各回次とも今年も昨年並みで、2回は欠席が少し増えました。他校併願の受験生の影響は2回が中心です。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は特に変わらなかったようです。大妻は、昨年2月5日に4回を新設しました。このため、昨年は各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、今年は減っています。回次ごとでは12月の帰国は増えましたが、2月2日の2回は昨年並み、1日の1回と3日の3回、昨年新設の4回は減っていて、特に3・4回は減少が目立ちます。遅い日程まで挑戦を続ける受験生が減っています。2回は合格最低点が上がって、やや難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

共立女子は曜日の関係で帰国生入試を1日繰り上げました。一昨年、昨年、今年と、各回次合計の応募者が増えていて、人気が上がっています。特に2月1・2日の増加が目立ちます。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は2日がやや上がり、帰国生入試が下がっていますが、出題難度の関係でしょう。総じて難度は昨年並みだったようです。

<中上位校～中堅前後までの各校>

小野学園女子が共学化した品川翔英は男女校で取り上げます。

立教系列校の香蘭は、長い間2月1日だけしか入試

を行っていませんでしたが、昨年2日午後2科の2回を新設、2回は1日午前の1回を大幅に上回る応募者があっただけでなく、1回も増えていました。今年は立教大学への推薦枠拡大で一層期待が高まったようで、1・2回ともさらに応募者が増加、高い人気を示しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年とあまり変わらず、実質倍率は上昇、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難化は確実な結果でした。東京女学館は、一般学級・国際学級の2コース制です。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減り、昨年は一昨年並み、今年も中学受験の拡大で増えています。回次ごとに見ると、帰国生入試と2月1日午前・午後の1・2回が増えていて、2日午後の3回と国際学級は少し減っています。3日午前の4回は昨年並みでした。志望順位が高い受験生が増えていません。合格最低点は1回が上がり、やや難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、国際学級も含め、難度に変化は見られません。

富士見は、初めての午後入試として2月2日午後算数1科目入試を新設、200名近い応募者がありました。1日午前の1回と3日午前の3回は応募者がやや減っていて、2日午前の2回は昨年並みの応募者数です。4日午前の3回も大きく増えました。算数1科目入試は合格最低点だけで単純比較することはできませんが、同校の今までの回次よりも少し低い得点率で、難度は他の回次並みだったようです。他の回次では1・2回は合格最低点が少し下がっていて、やや入りやすくなったかもしれません。3回は昨年並みの合格最低点で、難度は特に変化していません。

山協学園は、昨年は2月1日午後国語か算数を選択する1科目入試を新設、今年も2日午後課題研究の探究サイエンス入試を新設しました。また、曜日の関係で帰国生入試を1日早めています。各回次合計の応募者数は、一昨年は減りましたが、昨年、今年と増加が続いています。昨年は1科目入試が増加の中心でしたが、今年も同様で、性格上探究サイエンス入試は少ない応募者数でした。今年も2日午前のB、4日午前のCも増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みでした。Aと1科目入試は昨年並みの合格最低点ですが、B・Cは上がっていて、少し難化したようです。江戸川女子は、今年も2月1日午後のAO入試で英語選択を実施しました。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年は増加、今年も昨年並みです。ただ、今年も欠席が減っ

ていて、実際の受験者数は増えています。合格者数はやや絞っていて、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていません。

十文字も曜日の関係で帰国入試を1日前倒ししています。今年は入試の名称から「特待」を外しましたが、特待認定を取りやめたわけではありません。各回次合計の応募者数は一昨年が前年並み、昨年、今年と少し減っています。実際の受験者数や合格者数も少し減っていますが、特待の難度は変わっておらず、一般合格の難度も昨年並みか、やや入りやすくなったかどうか、といったところだったようです。実践女子学園は一昨年グローバル化対応のGSCを廃止、全クラスでグローバル化対応の教育に取り組むとともに入試を大きく変更、昨年も2月4日の6回を基礎学力入試に変更しましたが、今年は特に変更はありません。一昨年は各回次合計の応募者が大きく増えましたが、昨年、今年と減少していて、回次ごとでは早い日程で減っています。難度面では少し入りやすくなったかもしれません。

大妻中野はアドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。今年は、昨年2月3日午後から1日午後に移した算数1科目入試を2日午後に移すなどの変更がありました。一昨年は入りやすかったコアコースの募集を停止したため、各回次合計の応募者数は減りましたが、昨年は増加、今年は少し減っています。ただ、欠席は減っていて、実際の受験者数は昨年並み、合格者数は少し絞ったため、3日午前の4回は合格最低点が上昇、少し難化しています。他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。品川女子学院は12月に帰国生入試を新設しました。一昨年は2月1日午後に入試を新設、多くの応募があって、各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、昨年は減少、今年は増えています。増加の中心は2月2日午前の2回です。合格最低点は算数入試が少し下がっていますが、出題難度の関係でしょう。2月1日午前の1回は上がっていて、やや難化したかもしれません。2回と4日の3回は昨年とあまり変わりませんでした。

田園調布学園は初めての午後入試として2月1日午後に入試を新設、曜日の関係で帰国入試日程も変更しています。帰国入試と1日午前の1回は若干応募者が減ったものの、算数入試には300名を超える応募者があり、2日午前の2回、4日午前の3回も大きく増えました。算数入試は合格最低点だけで単純比較できませんが、同校の今までの入試回次よりも少し高い得点率で、難度は少し高くなったようです。他の回次で

は1回は昨年並みの合格最低点でしたが、2・3回は合格最低点が上昇、難化した入試でした。三輪田学園は2月2日の2回で英検資格による加点を新たに実施、3日の3回を4科から2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は1日午後に入試新設で大きく増えて、昨年は反動から減りましたが、今年は増えました。増加の中心は1日午後です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っています。合格最低点は昨年とあまり変わっておらず、難度は変わっていないようです。

跡見学園はIクラス・Pクラスの2コース制でしたが、今年から特待入試・一般入試に再編成しました。2月2日午後に入試で国語重視型の合格判定を新たに実施しました。各回次合計の応募者数は一時期低迷しましたが、一昨年以来、今年も増加が続いていて人気は回復してきました。実際の受験者数も増えていますが、今年は合格者数を若干絞っていて、2月1日午前の1回は合格最低点が上昇、少し難化しています。他の回次は、特待認定、一般合格とも難度はあまり変わっていないようです。

恵泉女学園はプロテスタント校で、今年は日曜日に重なった2月2日の入試を午後に移したため、3回の入試がすべて午後入試になりました。各回次合計の応募者数は、一昨年少し減って、昨年は一昨年並み、今年は大きく増えました。2日午後のA入試だけでなく、1日午後のS1回、3日午後のS2回とも増加しています。A入試は午後になって併願受験生が集まりやすくなっただけでなく、4科から2科4科選択になったため、S入試との併願も増えています。実際の受験者数も5割近く増加しましたが、合格者は少し絞っていて、実質倍率は上がりました。合格最低点はAが昨年並みですが、S1・S2回は上昇、難化した入試になりました。

女子聖学院もプロテスタント校ですが、日曜日だった2月2日も入試を行っています。今年は2日午前の思考力入試の名称を「アサーティブ入試」から「言語・数理リテラシー入試」に変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と少しずつ減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は2日午前の英語表現力入試が少し下がっていますが、得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、それぞれ難度は特に変化していないようです。

玉川聖学院もプロテスタント校で、今年は日曜日を避けて昨年2月2日だった入試を3日に変更しました。

各回次合計の応募者数は隔年で増減が続いていて、今年は順番通り増えています。実際の受験者数や合格者数も増えています。一部しか合格最低点が公表されていませんが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

附属カラーが強い日大豊山女子は2月2日午前の科目選択を拡大、5日午後に2科入試を新設するなどの変更があります。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減りましたが、昨年が一昨年並み、今年は増加と、人気が上がってきました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わらず、難度面では変化がなかったようです。独特な存在の女子美大付属は、一昨年、2月2日午後に2回自己表現型入試を新設して各回次合計の応募者数は大きく増加、昨年、今年と、各回次とも応募者が増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は回次によって上下していますが、補欠も出しているので出題難度と得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

昭和女子大付属は入試に特に変更はありませんでしたが、各回次合計の応募者数は昨年の2倍近くに一気に増加しました。昨年も増加しましたが、倍増に比べれば小幅でした。昨年の増加は初めての午後入試として適性検査型を実施するなど、併願受験生が中心でしたが、今年は併願受験生ばかりでなく、第一志望の受験生も大きく増えています。人気が一気に爆発したのは、昨年夏にアメリカのテンプル大学ジャパンキャンパスが港区から昭和女子大学の敷地内に移転、昭和女子大学だけでなく、中高とも様々な連携の取り組みが行われることになったため、実践的なグローバル対応教育が日常的に実施できることに、受験生が魅力を感じているからです。実際の受験者数は2倍を超えましたが、合格者数は昨年よりも減っていて、実質倍率は一気に上がり、昨年とは比べ物にならない厳しい入試結果でした。

カトリックの目黒星美は、各回次合計の応募者数が毎年少しずつ減っていましたが、欠席が減った面もあって、実際の受験者数は昨年一昨年並みでした。今年は昨年並みの応募者数で、実際の受験者数、合格者数は少し減っています。合格最低点は上下いろいろありますが、不合格者が少ないので、各回次の難度はあまり変わっていません。麴町学園女子は2月2日午前の適性検査型を1日午前に移しました。各回次合計の

応募者数は、一昨年は減少していましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。従来からの同校の教育内容への評価だけでなく、2020年度から実施されるダブルディプロマ(同校と海外の高校の2つの高校卒業資格が同時に取れるプログラム)への関心や期待もあっての増加です。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は1日午前と3日午前が上がり、少し難化しています。他の回次は昨年並みで、難度も変わっていないようです。

トキワ松の各回次合計の応募者数は、一昨年は小幅の増加、昨年は減少、今年は増えていて、隔年的な変化です。実際の受験者数も増えていて合格者も少し増えました。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。文京学院大女子は教科入試の選択の幅が広いほか、コース別思考力チャレンジ入試や英語インタラクティブ入試も実施しています。一昨年、昨年と各回次合計の応募者が少し増えていましたが、今年は減っています。しかし実際の受験者数はほぼ昨年と同じで欠席が減りました。合格者数は昨年並みで、合格最低点は一部上下している回次も見られますが、難度はあまり変わっていないようです。

和洋九段は、グローバルコースと本科コースの2コース制です。2月2日午後に入試を新設し、5日午前を取りやめたり、英語コミュニケーション入試をペーパーによる英語のみとすることなどや、入試日程による科目選択の種類を見直すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減りましたが、今年は増加に転じました。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、不合格者はあまり多くなく、各回次の難度はあまり変わっていません。京華女子は2月2日午前に英検利用入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年からはほぼ同じ水準が続いています。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者は絞っていて、レベル維持を図っています。一部回次で合格最低点の上下にバラつきが見られますが、難度は昨年とあまり変わっていません。

東京家政大付属はEクラスとiクラスの2コース制で、今年は2月3日午後と10日に思考力型の入試を新設しています。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年とやや減りましたが、今年は入試増設の効果もあって増加しています。実際の受験者数は増加、合格者も増えています。難度面ではあまり変化がなかったようです。校成学園女子はPISA型入試を2月1日午前午後集約して、都立三鷹、都立立川国際など、併願が

考えられる都立中高一貫校の出題パターン別に細分化したほか、3日午前には教科型入試を増設、3日午後の1教科入試を午前に移してデータリテラシーを科目選択に取り入れ、4日午前午後の科目選択に英語を追加するなど、入試を大きく変更しました。各回次合計の応募者数は大きく増えて、実際の受験者数、合格者数も増えていますが、不合格が少ない入試で、難度面ではあまり変わっていないようです。

中村は、国語や算数の1科目入試を取りやめ、基礎2科の入試を新設、2月2・5日の特待入試の時間帯を変えるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年が減少、小規模な入試になりましたが、昨年、今年と増加して小規模を脱しています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上下がいろいろと見られますが、不合格者が少なく、難度はあまり変わっていません。富士見丘はICT思考力入試を取りやめ、各入試の科目選択の幅を増やす、曜日の関係で帰国生入試の日程を前倒しにするなどの変更がありました。ICTを用いた入試はまだ早かったのかもしれませんが、小規模な入試が続いていましたが、中学受験の寄与したようで、各回次合計の応募者が増加、小規模を脱しました。不合格者が少ないこともあって、各回次の難度はあまり変わっていません。

神田女学園は小規模な入試の学校でしたが、入試の科目選択の拡大や新傾向入試の実施といった入試変更や、英語の強化を重点とした教育内容の改革を進めていて、こうした取り組みが受験生に評価され、各回次合計の応募者数は昨年に続いて増加、今年も小規模を脱しました。難度は特に変わっていません。東京女子学園は小規模な入試の学校で、今年も2月1日午後、2日午後には算数1科目入試を新設、6日に4科入試を新設、10日の適性検査型入試は取りやめるなどの変更がありました。特に算数1科目入試はスマートフォン持ち込みOKの入試を実施しました。スマートフォンは情報収集に利用し、出題は収集した情報の活用や判断、表現が中心です。11月にマスコミでも取り上げられましたが、時期が遅く、受験生の学校選択にはあまり影響せず、今年も小規模な入試でした。

聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしていることもあって、今年も小規模な入試でしたが、合格最低点が上がって、少し難化しています。国本女子は、カナダの高校卒業資格も取れるダブルディプロマコースを新設、在来コースはリベラルアーツコースと名付けて2コース制とし、英語入試なども実施しましたが、

今年も小規模な入試でした。また、東京女子学院は2月3日午前午後に入試を新設するなどの変更があり、東京家政学院も科目選択を拡大するなどの変更があった、両校とも各回次合計の応募者数は増えていますが、まだ小規模な入試です。聖ドミニコ学園、川村、星美学園、北豊島、瀧野川女子学園、愛国も、応募者の増減はいろいろとありましたが、各校とも今年も小規模な入試でした。また、成女学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

4. 男女校

<難関校～中上位校>

国立の筑波大附属は、一昨年、昨年と応募者の増加が続いて人気が上がっていましたが、今年は昨年並みで、人気が一段落したようです。合格者数は増えて実質倍率は下がりましたが、例年通り補欠も出していますから、やや入りやすくなったかどうか、といったところでしょう。なお、同校は長い間実技科目を含む入試でしたが、2021年度から4教科入試に変更されます。

学芸大世田谷の応募者数は、一昨年は男子が前年並み、女子は増加、昨年も女子は増えていて、男子も小幅ながら増加していましたが、今年も男女とも減っています。合格者数は男女で増減が異なりますが、補欠を出していることから、男女とも難度はあまり変わっていないようです。学芸大竹早は、一昨年は男女とも前年並みの応募者数で、昨年は男子が減少、女子は増えていましたが、今年も男子が増加、女子は昨年並みでした。今年も正規合格の難度が少し上がったようで、補欠が増えています。

お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。一昨年は男子の応募者が若干減って女子は大きく増えていて、昨年は女子が減少、男子は一昨年並みでした。今年も同様で女子が減って、男子は昨年並みです。女子の人気に少し陰りが出ているようです。女子は少し入りやすくなったかもしれませんが、男子は昨年並みの難度でしょう。同校は2021年度から検査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが入試科目になります。公立中高一貫校は「適性検査」ですが、同校では「入学検定による検査」になります。入試科目が大きく変わるため、難度も動くことになりそうです。

双子の研究教育で知られる東大附属は、一昨年は推薦・一般ともに男子が前年並みの応募者数、女子は増えていましたが、昨年は逆に男子が推薦・一般とも増加、女子もやや増えていて、今年も推薦が男女とも増

加、一般も女子が増加して男子は昨年並みでした。今年は女子の人気が目立ちましたが、特殊な性格もあって、難度はあまり変化していないようです。学芸大国際は隔年現象が見られる学校で、今年は順番通り英語中心のA方式、国内生向けのB方式ともに少しずつ応募者が減っています。国際バカロレアの認定校で、固定ファンがいることから、増減の幅はあまり大きくありません。実際の受験者数も少し減っていますが、難度面はあまり変わっていないようです。

私立では、慶應中等部の応募者数は、以前は男女で傾向が違う年もありましたが、一昨年は男女とも増加、昨年は一昨年並み、今年は減少と、この3年は同じ傾向で増減しています。1次合格者に2次を行う2段階選抜で、補欠も出ていますから、今年も昨年とあまり変わらない高難度でした。渋谷教育渋谷は、各回次合計の応募者数が一昨年、昨年と安定して推移していましたが、今年はやや減っています。各回次とも少しずつ減っていますが2月5日の3回はまとまって減っていて、遅い日程まで挑戦する受験生が減っているのでしょう。実際の受験者数も少し減っていて、合格者は増やしています。1日の1回は昨年並みの合格最低点ですが、3日の2回と3回は少し下がっていて、若干ですが入りやすくなったかもしれません。

青山学院はプロテスタント校で、今年は2月2日が日曜日になったため、3日に入試を移しました。一昨年、昨年と男女ともに応募者が増加しましたが、今年は3日に移って男子は併願受験生が増加、女子も昨年並みの応募者数が続きました。ただ、実際の受験者数は男女とも減っています。受験生が2日までの合格校に流れて欠席が増えました。男女とも合格者数と合格最低点は昨年並みで、補欠も出していますから、難度は特に変わっていないようです。

広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルAG、同SG、本科のコース制です。一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が前年並み、厳密には微減でしたが、今年ははっきり減っています。回次ごとでは2月1日午後の本科の女子のように増えている回次もありますが、難度が進んで敬遠傾向が出ているようです。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は増えていて、1日午前の本科は昨年並みの合格最低点ですが、他の本科は少し下がっています。やや入りやすくなったのかもしれませんが。医進サイエンス、インターナショナルAG、同SGは難度に変化はなさそうです。

國學院久我山は男女別学です。2月5日午前の3回

を一般入試から4科のままSTに位置づけを変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は小幅な増加、昨年は減少しましたが、今年は増えていて、隔年的な変化です。回次ごとでは2月1日午後のST1回女子とST3回男子が昨年並み、3日午後のST2回とST3回の女子は減っていますが、他の回次は増えていません。実際の受験者数は増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は帰国の一部で上昇していますが、得点分布の関係でしょう。他の回次は男女ともほぼ昨年並みで、難度に特に変化は見られません。

東京農大第一は2月2日午後の2回を算理から、算理と通常の2科(国算)との選択に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年は増加、昨年は減少しましたが、今年は増加しました。直接には2回の科目変更の効果ですが、隔年現象もあるでしょう。1日の1回は昨年並みの合格最低点で、難度に変化は見られませんが、2回の算理と4日の3回は昨年より上がっていて、2回の通常の2科も、1回の2科よりも高くなっていますから、2回以降は少し難化したようです。

淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。今年は英語入試を新設したほか、東大セレクト入試を4科から2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は入試を1回減らしたことから減っていましたが、昨年は微増で、今年は増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は絞っていて、実質倍率が上がっています。特にスーパー特進は難化した入試になったようです。

東京都市大等々力は昨年、入りやすいコースだった特進の募集を停止、現在はS特選と特選の2コース募集です。今年は2月2日午前の特選入試を募集停止にしました。各回次合計の応募者数は、昨年は入りやすいコースを募集停止したにもかかわらず増加しましたが、今年は入試回数を減らしたため、減っています。しかし、実際の受験者数は昨年とほとんど変わらず、入試回数を減らしても受験生は他校に流れていません。合格者数は昨年並みで、合格最低点は2月1日午前の1回と、午後の特選1回が上昇、他の回次は昨年並みです。志望順位が高い受験生が多い入試で難化したようです。今年もレベルアップしました。

開智日本橋学園はGLC、DLC、LCの3コース制です。2015年に日本橋女学館が共学化、校名を変更して以来高い人気が続き、昨年は入り易いコースだったACの募集を停止にしましたが、それでも応募者は増加、各回次合計では3,000名を超えました。今年は

難化が進んで敬遠ムードが出たようで、帰国生入試と適性検査型以外の回次は応募者が少し減っています。実際の受験者数も減りましたが、難度は各コースとも変わっていないようです。三田国際学園はインターと本科の2コース制でしたが、昨年メディカルサイエンステクノロジー(以下MST)クラスを新設、3コース制に移行しました。2015年度に戸坂が共学化、校名を変更して大人気になった学校で、応募者が増え続けていましたが、難化が進んで一昨年、昨年と各回次合計の応募者が少しずつ減って、今年は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点はまだ公表されていませんが、難度面でも今年は一段落したかもしれません。

<中上位校～中堅までの各校>

小野学園女子は共学化して、校名を「品川翔英」に改称しました。新しい進学校としてのスタートです。小規模な入試の学校でしたが、各回次合計の応募者数は大きく増加、昨年の5倍を上回りました。男子の方が多く結果で、新たな進学校に期待する受験生が集まっています。女子も昨年の2倍を超えていて、共学校志向の受験生が多いことを示しています。合格最低点は、昨年は一部しか公表されていませんでしたので単純比較は難しいのですが、やや難化したかもしれません。

他の学校は、比較的内部進学率が高い大学系の学校から見ていきます。成城学園の応募者数は、一昨年は2月1・3日の1・2回とも男子がやや増加、2回的女子は減っていましたが、昨年は1・2回、男女とも大きく増加、1月に帰国生入試を新設したこともあって合計では5割近く増加しました。今年はやや減っていますが、昨年の増加に比べればわずかで、人気は継続しています。実際の受験者数もやや減りましたが、合格者数・合格最低点は昨年並みで、昨年上がった難度は今年も継続しています。

日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は、一昨年は各回次合計の応募者数がやや増えていて、昨年は減っていましたが、今年は増加、隔年的な変化です。2月1日の1回は合格最低点がやや上がっていますが、難化とまではいいにくい状況ですが、3日の2回は上がって、少し難化したようです。日大第一は日大第二より付属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は一昨年はやや増加、昨年は増加、今年も少し増えていて、人気が上がっています。今年は女子の増加が目立っていて、中学受験の拡大とともに、

女子の共学校志向の増加を示す結果となりました。合格最低点は2月2日午前の4科2回と3日午前の2科1回が少し上がっていて、やや難化したようです。他の回次は昨年並みでした。

昨年、日出は日大の準付属校になり、校名を目黒日大に改称、各回次合計の応募者数は一昨年の5倍近い人数に増加して大人気になりました。今年は12月の帰国入試と2月2日午後の入試を廃止、2日午前に適性検査型を追加しましたが、合計の応募者数は増えていきます。通常、入試日程を減らせば応募者は減りますが、それでも増えているのは同校の人気の表れです。実際の受験者数もやや増えていて、合格者数も増えたから、実質倍率は少し下がっています。合格最低点は第一志望の受験生が多い1日午前の2科4科入試が上昇、難化した結果で、4日午後の特待入試もやや上がっています。他の回次も昨年並みで、全体的に少し難化した結果でした。

東海大高輪台は、各回次合計の応募者数が、一昨年はやや減っていましたが昨年、今年と増加が続いていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は増やしておらず、実質倍率は上がっています。2月1日の1回は合格最低点が上がって難化しました。3日の2回、5日の3回は昨年並みで、難度に変化は見られません。

次に付属ではない学校や付属カラーの薄い学校を見ていきます。青稜は、一昨年は各回次合計の応募者が少し増えていて、昨年は大きく増加しましたが、今年は減っていて、人気が一段落しました。実際の受験者数も減っていて、合格者数も少し減っています。合格最低点は帰国入試と2月2日午前の2Aが上がり、少し難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度は変わっていないようです。東洋大京北は2月1日午後の2回を2科4科選択から2科に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は昨年並み、厳密には小幅の増加です。男子は少し減っている回次も見られますが、女子は増加が続いていて、人気が上がっています。合格最低点は4日午前の4回の2科がやや下がっていますが、出題の難度の影響でしょう。それ以外は昨年上昇した合格最低点の水準が続いていて、昨年並みの難度が続いています。

グローバル対応の教育で知られる男女別学のかえつ有明は、今年は帰国生入試や思考力入試の一部の日程や時間帯を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年は増加、昨年は減って、今年は増えていて、隔年

的な変化です。実際の受験者数も今年は増えていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は上がっています。難度面では、特待入試は昨年並みの難度のようですが、それ以外は各回次とも少し難化したかもしれません。

宝仙学園理数インターは自己アピール型やアクティブラーニング型の入試が多く、今年は読書プレゼン入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加しましたが、昨年、今年と減っています。実際の受験者数や合格者数も減っていて、教科型入試の合格最低点は2月2日午後が下がっています。1日午後満点が昨年と変更になっていますが、換算すると得点率は下がっていて、この2つの入試は少し入りやすくなったかもしれません。1日午前と適性検査型の各回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

順天は隔年現象が見られる学校で、一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は減少、今年は順番通り増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は少し減っています。合格最低点は4日午後の多面的入試の英語選択がやや下がっていますが、出題難度が理由でしょう。2日午後の2回Bは上がっています。他の回次は昨年並みで難度に変化は見られません。

駒込は2月4日の入試を1科目入試とし、また「数的」など独特の呼称だった適性検査型の科目を一般的な「検査1」などの呼称に変更しました。国際先進と本科(AGS)の2コース制です。各回次合計の応募者数は、一昨年は小幅でしたが増加、昨年と今年増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、基準点をクリアすれば合格しているので、難度は各回次とも昨年並みでした。

文教大付属は、各回次合計の応募者数がやや増加、昨年は増加、今年も少し増えています。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は回次によって上下いろいろな動きが見られますが2月1日午前の1回は昨年並み、適性検査型のみらい創造入試と4日の5回は上がって少し難化したようです。2日午前の3回は少し下がり、やや入りやすくなったかもしれません。他の回次は概ね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

安田学園は、先進特待と総合(一般)の2コース制です。総合コースの定員を減らして先進特待コースに移す変更が毎年行われていて、今年2月4日午前に先進特待入試を追加しました。各回次合計の応募者数は一昨年は増加、昨年は一昨年並みで、今年入試回数

を増やした分増加しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は小幅の増加に留まっています。合格最低点は、先進特待では2日午前の適性検査型が上がっていますが、出題の難度が影響しているようで、難度はあまり変わっていないでしょう。他の先進特待各入試も、もともと総合コースへのスライド合格を実施していたため、新設の4日の入試も含めて昨年とあまり変わりありませんが、定員が削減された総合コース入試は1日午前の1回、2日午前の2回とも合格最低点が増え、難化した結果で、先進特待との難度差が縮まった結果でした。

淑徳巣鴨はスーパー選抜と特進の2コース制で、一昨年は各回次合計の応募者数が減りましたが、昨年、今年と全回次で男女とも増加して人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はあまり増えていません。合格最低点は2月4日の3回は上がって少し難化しています。他の回次は昨年並みですが、細かく見ると難度面では表面化しにくい程度に少しずつ上がっていて、段階的に難化を図っていくとする学校側の姿勢がうかがえます。多摩大目黒は特待特進と進学2コース制です。昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年は減っています。しかし実際の受験生は減っておらず、今年欠席が減っています。合格者数も昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

立正大立正は、各回次合計の応募者数は一昨年は減少していて、昨年はやや増加、今年も増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は昨年とあまり変わっていないようです。八雲学園は一昨年女子校から共学化した学校で、一昨年は各回次合計の応募者数は2倍以上に増加、昨年もやや増えましたが、今年昨年並みです。応募者数の男女比はまだ女子の方が多いのですが、差は縮まってきました。合格最低点は各回次ともほぼ昨年並みで、難度は安定しています。

文化学園大杉並は日本とカナダ両方の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマコース」が設置されている学校で、同校も一昨年、女子校から共学化しました。今年2月3日午後の2科入試を算数特別入試に変更しています。昨年は共学化で各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。男子は昨年に続いて今年も大きく増えていますが、まだ女子の応募者が多く、女子校志向の受験生から共学校志向の受験生に変わっ

てきています。合格最低点は細かい上下がありますが、概ね昨年並みで、難度に変化は見られません。

城西大城西は曜日の関係で帰国入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年、今年と増えていて、今年の方が昨年よりも増加幅が大きくなっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上昇が目立つ回次も見られますが、不合格者があまり多くないので、各回次とも難度は昨年並みでしょう。郁文館は曜日の関係で帰国入試と特別編成入試の日程を変更したほか、他の入試設定も一部変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年まで増加が続いていましたが、昨年はやや減っていて、今年の一部未公表の回次がありますので、公表分だけの比較だと増加しています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。

東京成徳大は、一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年は少し減っていて、今年も減っていますが、主に男子が減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は2月4日午前の4回が昨年並み、他の回次は若干下がっているものの、入りやすくなったというほどではありません。帝京大帝京は、2月2日午前の入試で算数入試を追加、適性検査型思考力入試と並行実施にしました。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年、今年と少し増えています。実際の受験者数、合格者数は昨年並み、2日午前は合格最低点が少し上がっていますが、得点分布の関係で、難度面はあまり変わっていないようです。他の回次は昨年並みで、やはり難度も変化はありません。

桜丘は曜日の関係で入試を1日繰り上げました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と増加していて、中学受験の拡大を背景に人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格は基準点方式で昨年と変わっていませんから、難度に変化は見られません。目白研心は2月2日午後の入試を特別入試として特待を設定しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減りましたが、昨年、今年と小幅の増減が続いています。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わっていません。難度は安定しています。

共栄学園は特進・進学 of 2 コース制です。今年 is 2 月 1 日の午後を、国語または算数の選択でリスニングやプレゼンを含んだ 4 技能入試に変更しました。また、

12 日に入試を追加しています。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていましたが、今年 is 増えました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上下いろいろな動きが見られますが、不合格者が少ないこともあって、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。実践学園は 2 科 + 選択 1 科の入試を 2 科 4 科選択に変更、適性検査型入試を 2 月 1 日午後から午前 to、特待 2 回を 2 日午後から 3 日午後に移すなどの変更があります。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少しましたが、新設入試の効果もあって昨年、今年と増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は少し上下している回次も見られますが、不合格者が多くないので、難度は昨年とあまり変わっていません。

日本工大駒場は 2 月 8 日に 1 科目入試を新設、1 日午前 to 自己アピール型や英語選択を追加、2 日午前 is 適性検査型を追加するなどの変更がありました。1 科目選択や英語選択、自己アピール型などの多彩な入試を設定している学校で、各回次合計の応募者数は増加が続き、今年も増えていよいよ 1,000 名台になりました。もともと工業高校の併設中学校としてスタートしましたが、高校に普通科の特進コースなどを設置して進学校に転換している途中で、2021 年度から高校の工業科(創造工学、理数工学)の募集停止を発表していることも人気の理由です。入試のやり方を変えているだけではありません。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は一部上がっている回次も見かけるものの、不合格者があまり多くないことから、難度面はあまり変化していません。

上野学園はアドヴァンストとプログレスの 2 コース制で大学受験体制に結びつくコース制ですが、音楽専攻も選択できる学校です。各回次合計の応募者数は、一昨年は減っていましたが、昨年、今年と増加が続いています。入試の種類が多いので、1 つ 1 つの入試では目立った変化は感じられませんが、2 月 1 日午前 is 3 割以上増加し、志望順位が高い受験生が増えています。実際の受験者数も増えていて、合格最低点は上下が見られるものの、不合格者が少ないことから、難度はあまり変わっていないようです。

駿台学園は特選・総合 of 2 コース制です。今年 is 2 月 2 日午後と 11 日に入試を追加したほか、1 日午後、4 日と追加した入試は 2 科から英語や思考力も含めた科目選択に変更しました。小規模な入試だった年もある学校ですが、昨年は各回次合計の応募者が増加、小

規模を脱しました。今年は昨年並みです。ただ、実際の受験者数や合格者数は少し減っていて、難度は特に変化はなかったようです。国士館も小規模な入試でしたが、応募者が増えて一昨年、小規模な入試を脱しました。今年は応募者が少し減っていますが、各回次合計で200名は超えています。同校も難度に変化はみられません。

東京立正は適性検査型入試を新設したり、2月13日にも入試を実施するなどの変更が、成立学園は2月1

日午後の入試に算理や算社選択を追加するなどの変更がありました。両校とも各回次合計の応募者数は増えていますが、今年も小規模な入試でした。難度にも変化は見られません。武蔵野、目黒学院、新渡戸文化、貞静学園、修徳も、入試に一部変更があった学校もありますが、今年も小規模な入試でした。なお、松蔭、東邦音大東邦、高校を併設していない清明学園は本稿執筆段階では入試結果未公表でした。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

11ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園
・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園(医進サイエンス・インター)
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・成城・世田谷学園・高輪・東京都市大付属・本郷・明大中野・立教池袋
・大妻・学習院女子・共立女子・香蘭女学校・品川女子学院・頌栄女子学院・東京女学館・東洋英和・富士見
・普連土学園・立教女学院・青山学院・お茶の水女子大(女子)・開智日本橋(G L C・D L C・特待)
・國學院久我山(男女S T)・淑徳(東大)・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力・東京農大第一
・広尾学園(本科)・三田国際学園
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・芝浦工業大附属・獨協・跡見学園(特待)・江戸川女子・大妻中野・恵泉女学園
・光塩女子学院・聖心女子(帰国のみ)・田園調布学園・山脇学園・お茶の水女子大(男子)・開智日本橋(L C)
・かえつ有明・國學院久我山(男女一般)・淑徳(スーパー特進)・順天・成城学園・青稜・東京学芸大竹早・東大附属
・日大第二・宝仙学園理数インター(特待)・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華(特選)・佼成学園(一般)・聖学院(特待アドバンス)・日大豊山・跡見学園(一般)
・京華女子(特待)・麴町学園女子(特待)・佼成学園女子(特奨)・実践女子学園・十文字・昭和女子大附属・女子聖学院
・女子美術大付属・玉川聖学院・東京家政大附属(特進E)・トキワ松学園(特待)・中村(特待)・日大豊山女子
・三輪田学園・目黒星美・和洋九段女子(グローバル)・郁文館(特奨・特選)・共栄学園(特待特進)
・駒込(国際先進)・淑徳巣鴨・多摩大目黒(特待特進)・東海大高輪台・東京成徳大・東洋大京北・日大第一
・文化学園大杉並・文教大付属・宝仙学園理数インター(一般)・目黒日大・八雲学園・立正大立正(特待)
- E…京華(一般)・聖学院(一般)・日本学園・愛国・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子(一般)
・麴町学園女子(一般)・佼成学園女子(一般)・淑徳S C・成女学園・聖ドミニコ学園・星美学園・瀧野川女子学園
・東京家政学院・東京家政大附属(進学i)・東京女子学院・東京女子学園・トキワ松学園(一般)・中村(一般)
・富士見丘・文京学院大女子・和洋九段女子(本科)・郁文館(進学)・上野学園・共栄学園(進学)・国士館・駒込(A G S)
・桜丘・実践学園・品川翔英・修徳・松蔭・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・成立学園・多摩大目黒(進学)
・帝京大帝京・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・日本工業大駒場・武蔵野・目黒学院・目白研心
・立正大立正(一般)